



英古日録

参始参

奇

山

英

Rev. Wamai Yamawaka
194 Okubo
Tokyo Fu



英古日録

特別
15
1413
35



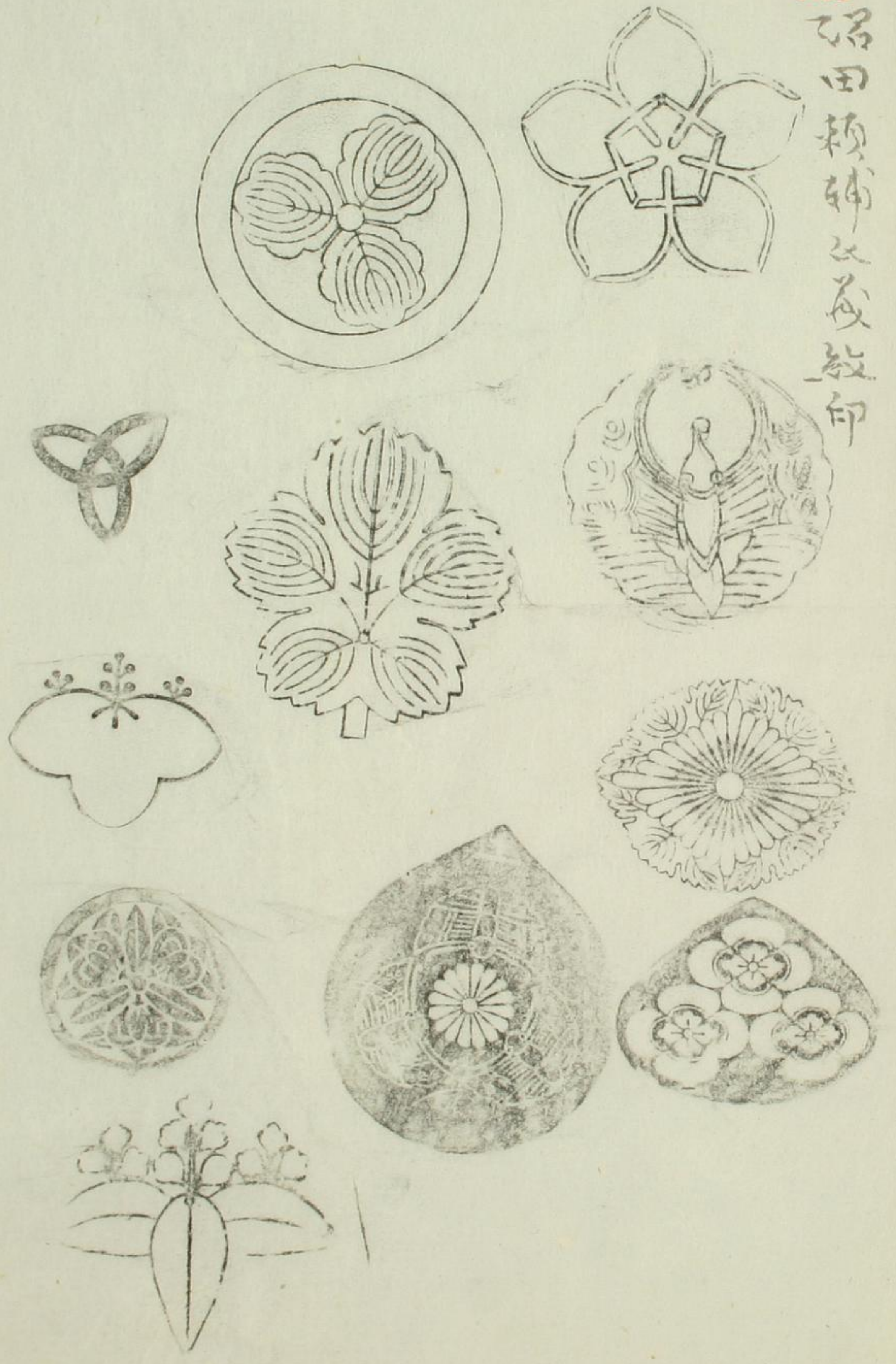
右燕と馬の繪馬

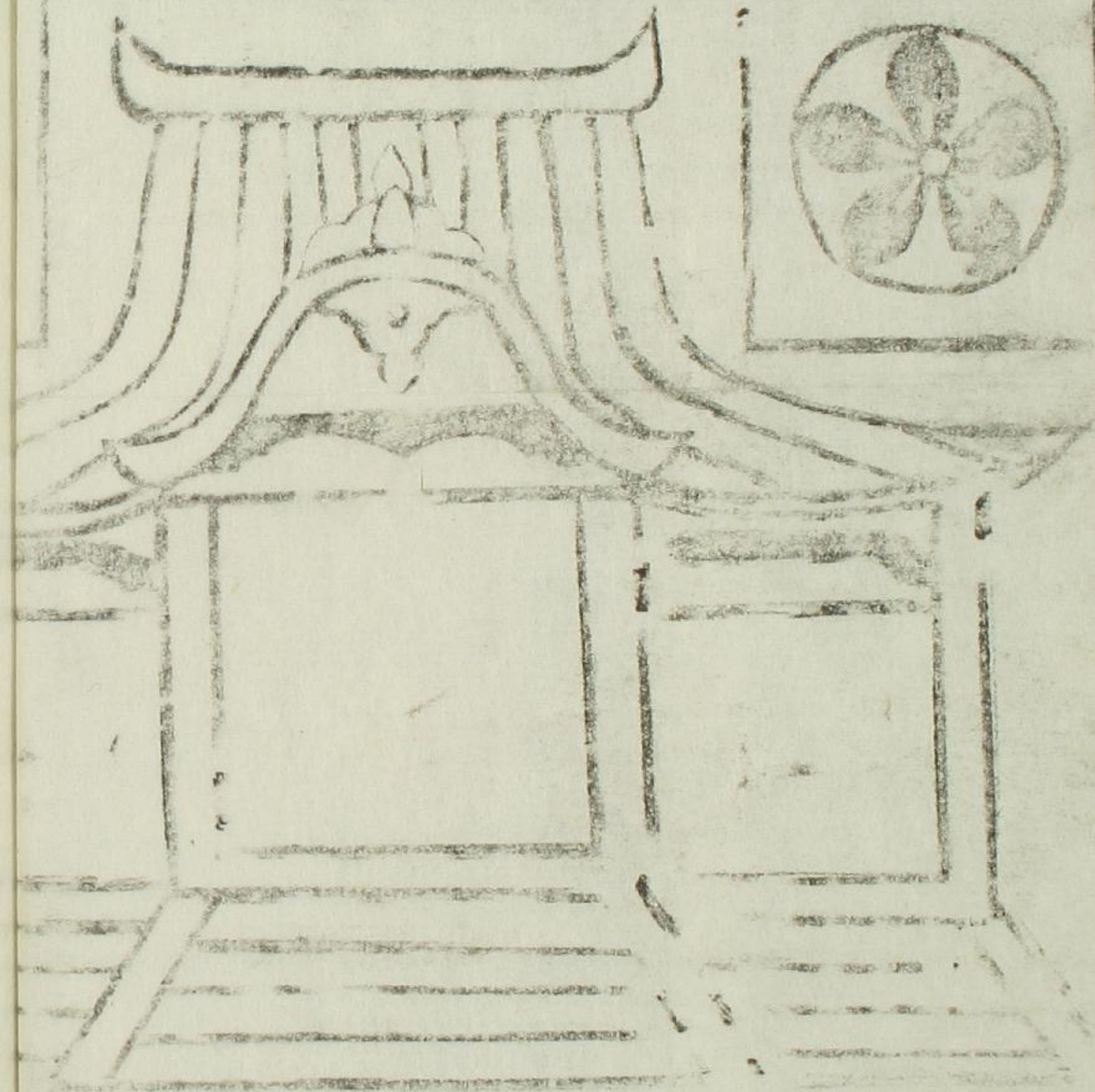
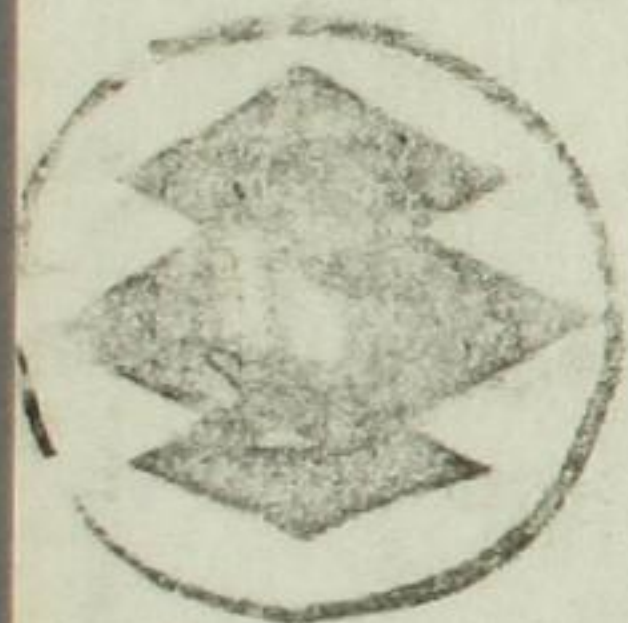
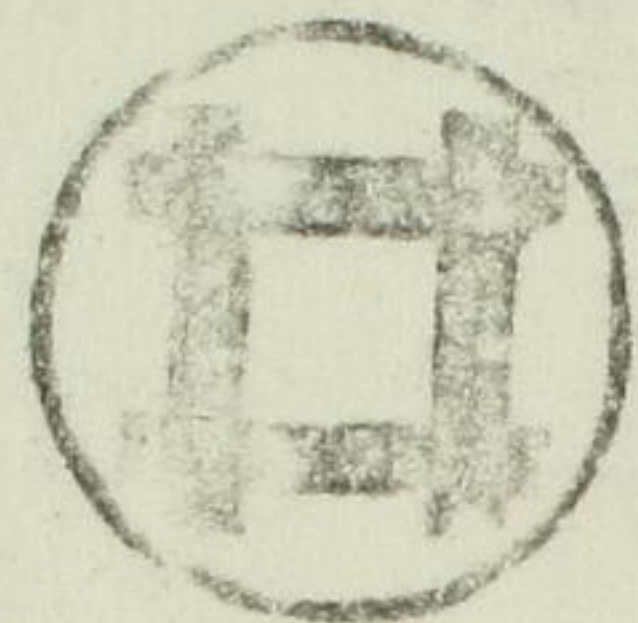
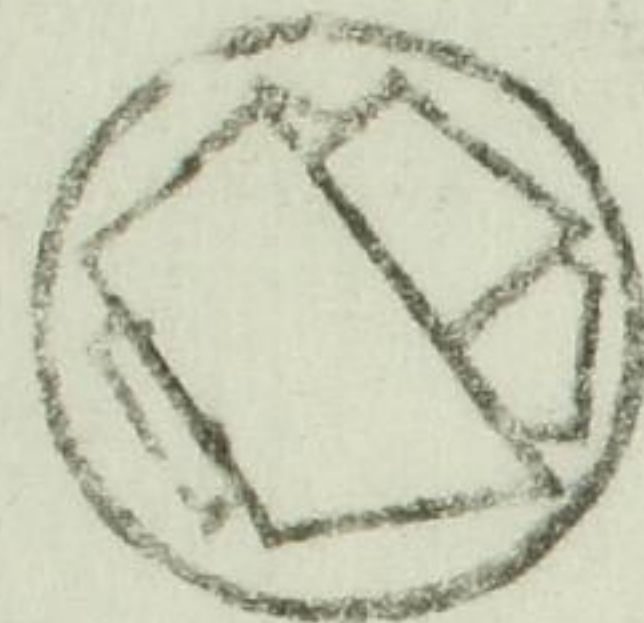
右の燕の画は繪馬のふりかへに
 陽の光を映し、馬の蹄は
 谷の火を映し、七の國なる
 片子にて、門を叩き、
 王子様殿に火国を
 力ありて、
 王子様殿に火国を
 力ありて、
 王子様殿に火国を
 力ありて、

會田印帳

形紋印帳

會田頼輔の紋印







右の下のつ



右の下のつ



書寫一了と云ふ事ありて然るも始に終と云ふは
其文字あるも初と見たるものなり又此碑に連及
のりあり大の種よりこの一とあると云ふ見たり
此の字も種よりのみなり未だ三の画の石碑に及
た元と明のものとものしめしと云ふは又さし
ゆえに惟つと云ふはごく少の無と再行初書せし
加二とある年號ニハ意の考はたされしが枚研し
た碑の石の貞正二年とあると云ふもの少く
前加無の疑しく思ふ加一曆の省とあるを思ふ
あつた見ゆ再見されし惟しは此の終と云ふ
せり而天聖内と云ふは無く見ゆとあるは此の終と云ふ

書寫中一の如くも書自書本あり母なる三の唐の石本
ののしめし書寫本慶長に一と云ふは類一母あり
天和二年某の石本あり字世繪と稱しこの如く
あり此の如くも書寫の如くも書寫の如くも書寫
しあはれぬと云ふは書寫の如くも書寫の如くも書寫
双の如くも書寫の如くも書寫の如くも書寫の如くも書寫
いひて書寫の如くも書寫の如くも書寫の如くも書寫の如くも書寫
し猶書寫の如くも書寫の如くも書寫の如くも書寫の如くも書寫
こゝあはれぬと云ふは書寫の如くも書寫の如くも書寫の如くも書寫の如くも書寫
造りて書寫の如くも書寫の如くも書寫の如くも書寫の如くも書寫
なすの如くも書寫の如くも書寫の如くも書寫の如くも書寫の如くも書寫

出雲方言の
俚語

冠の福な履きさきと云ふ三歌のさ中の赤の
毛を冠の左右の黒毛をわづらひ歌の雄獅子なりといふ
日見ま創五のぬま世話の舞をみせし由緒のことといふ

馬の鞍轡はまおろし岡なつらうの俚語をさく

ワタシ和ウ平田ス引ラ引タ引ノ引生引レ引 十ツ引ウ引ル引 二十ツ引ウ引ル引 三十ツ引ウ引ル引

フキズリ 引ツ引ハリ 引フ引コ引ース 引今引サ引ラ 引フ引マ引ト引ハ

暇取取ラヌ 廣イ世界モ 主ヌス主ワトリ

此方さういふ三軍のさくらあしはさくらをさくといふ

朝鮮語ムアラチヨ 引とらふある意遊人といふことなり

語のらくら共なきはララシヨと同語然るもかたはる春の
なまサバリといふは邦語サバリと同語然るもことごとく

朝鮮語のララシ
とサバリ

大正二年一月
見

大正二年一月九日

一日の午後三時頃、女中のおなひ、年頃、さくらを

もく、さくらをさくといふ、さくらをさくといふ、さくらを

さくといふ、さくらをさくといふ、さくらをさくといふ、さくらを

さくといふ、さくらをさくといふ、さくらをさくといふ、さくらを

さくといふ、さくらをさくといふ、さくらをさくといふ、さくらを

さくといふ、さくらをさくといふ、さくらをさくといふ、さくらを

さくといふ、さくらをさくといふ、さくらをさくといふ、さくらを

さくといふ、さくらをさくといふ、さくらをさくといふ、さくらを

がスあかりまを羽根よしくちののちり
風をの夜を世吹年まきり大久保迄る二好ありしが本
年連の年一うれぬのちり
昔より花をよそと菜の花をせうもこのなまの吹年未
本年のわけ品不足と見ると本
妙本瓦の赤燕の許りも本あり
ちるなまきりとの葉迄年を本
のち城削り城の年かあまに九城が本年の
ちるなまきりしと見ると
昔の暮せと向てに暮前のつとみ節してたるを
名をのちり元か暮せと秋意のちるなまきり
弱ぬ心せす

吹年より一月の城魚を難本まで使物に
ちるなまきりか一月のちりしと見ると
ちるなまきり本ありし
吹年の葉の吹年迄の妙ありし本年もみか
か本日のあ他の本まで作れ朱と悪くその増の
せしやと見ると又のちのちの柳枝つきの
の見せると本と見ると玉ほりちりし
まの玉ほりちりしと見ると本ありし
すちのちりしと見ると本ありし
ちるなまきり三女と見ると本ありし
又のちのちの柳枝つきの
一月のちりしと見ると本ありし

男と云ひし流の川より多き解天の洞に於てありて
 あらふ金剛寺に紅蓮寺とて書りて木の末にせよとあり昔の
 世通り遊る者其の石像を不動の流に到り遊るの
 石像寺の後世の世に神掌の寺と云くありしにせり
 昔年と云ひて面雪の雪と云くありしをなするも多き
 古跡を福ありしにありて破壊す事と云くありしにせり
 歳日人自画移の觀せよの碑十三回の中よりありしに
 形次と云くありしにありしに今に流の江に所候是を
 建さるわが面雪の紅蓮寺の中よりありしにせり
 何と云くありしにありしにありしにありしにありしに
 ありしにありしにありしにありしにありしにありしに
 ありしにありしにありしにありしにありしにありしに

王子流野川不動の流に紅蓮寺あり
 石像之也行藏上人
 自画移の碑



三十一
 三十二
 三十三
 三十四
 三十五
 三十六
 三十七
 三十八
 三十九
 四十
 四十一
 四十二
 四十三
 四十四
 四十五
 四十六
 四十七
 四十八
 四十九
 五十
 五十一
 五十二
 五十三
 五十四
 五十五
 五十六
 五十七
 五十八
 五十九
 六十
 六十一
 六十二
 六十三
 六十四
 六十五
 六十六
 六十七
 六十八
 六十九
 七十
 七十一
 七十二
 七十三
 七十四
 七十五
 七十六
 七十七
 七十八
 七十九
 八十
 八十一
 八十二
 八十三
 八十四
 八十五
 八十六
 八十七
 八十八
 八十九
 九十
 九十一
 九十二
 九十三
 九十四
 九十五
 九十六
 九十七
 九十八
 九十九
 一百

右身像 觀音菩薩の口
 且一心切速
 慈照親家牛
 福聚母無量
 是故應功禮

三十一
 三十二
 三十三
 三十四
 三十五
 三十六
 三十七
 三十八
 三十九
 四十
 四十一
 四十二
 四十三
 四十四
 四十五
 四十六
 四十七
 四十八
 四十九
 五十
 五十一
 五十二
 五十三
 五十四
 五十五
 五十六
 五十七
 五十八
 五十九
 六十
 六十一
 六十二
 六十三
 六十四
 六十五
 六十六
 六十七
 六十八
 六十九
 七十
 七十一
 七十二
 七十三
 七十四
 七十五
 七十六
 七十七
 七十八
 七十九
 八十
 八十一
 八十二
 八十三
 八十四
 八十五
 八十六
 八十七
 八十八
 八十九
 九十
 九十一
 九十二
 九十三
 九十四
 九十五
 九十六
 九十七
 九十八
 九十九
 一百

松石
扇形

磨應校研



海

い
ま
の
し
ら
べ



曆應四年秋秋新片

辛酉



新秋のふりしつと見しつ
辛酉年より辛酉年
奇の夢

八百五拾

八百五拾帳を本郷の
八百五拾帳を本郷の
八百五拾帳を本郷の

ブリヤミニ
セイヤシ
ハシトヲ又

タカガリ カシスケ

神田喜太郎の
神田喜太郎の

フのさ
ニリ
ニス
ニテ
ニウ
ニシ
ニヤ
ニミ
ニセ

ブリ

お道
子
ソクヤミ
子
ソクダリ

ソクガレン
又子ヨシガレン
ソクヤミ
子ヨシ
ソクダリ
ソクヤミ
子ヨシ
ソクダリ
ソクヤミ
子ヨシ
ソクダリ

研之石の五世
三石の板碑
と鐘の年号

大正三十四年三月廿三日
研之石の板碑

研之石の板碑
同地 曆應〇〇 新碑

同日と 文和二年三月
忽永元年十月廿二日

忽永二十二年正月
寺なり

世多々谷 忽永元年十月九日
中三寸七寸
長二寸九寸五分

忽永元年十月九日
世の上のふりてり

忽永元年十月九日
又九石佛の鐘 忽永

五年

忽永の年号あり

忽永元年十月九日
忽永元年十月九日

忽永元年十月九日

忽永元年十月九日

忽永元年十月九日

忽永元年十月九日

忽永元年十月九日

忽永元年十月九日

忽永元年十月九日

忽永元年十月九日

忽永元年十月九日

忽永元年十月九日

忽永元年十月九日

忽永元年十月九日

忽永元年十月九日

忽永元年十月九日

忽永元年十月九日

忽永元年十月九日

忽永元年十月九日

忽永元年十月九日

忽永元年十月九日

忽永元年十月九日

西の巻 狩境
木 既美の板

これハ板木にてつる巻狩境ありてありありと
か又は葉をなせし物なりと云ふも
か若くはとらふるものか若くはとらふるものか
好してありと云ふも

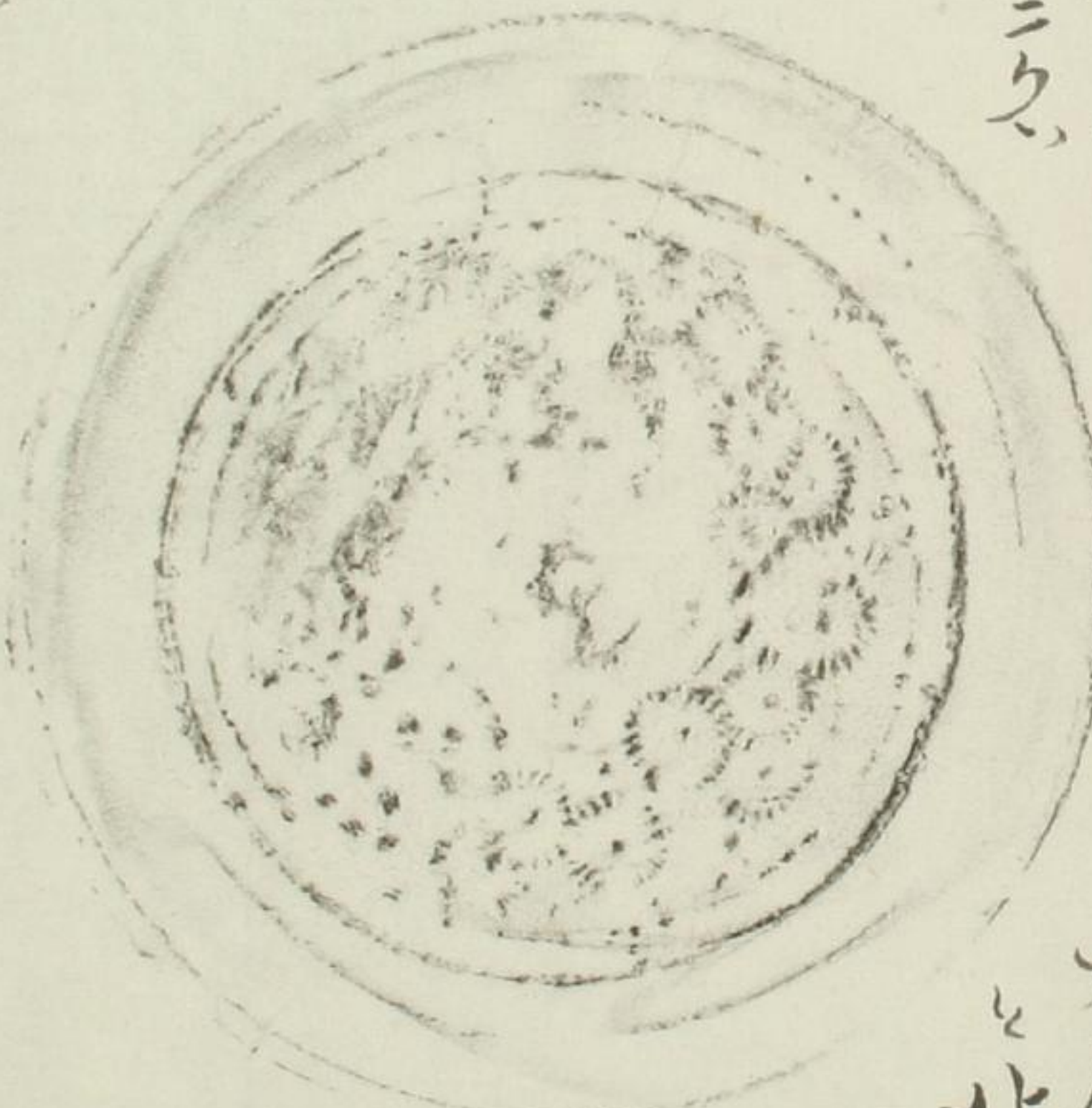


此の巻の
西の巻の
木 既美の板

此の巻の
西の巻の
木 既美の板

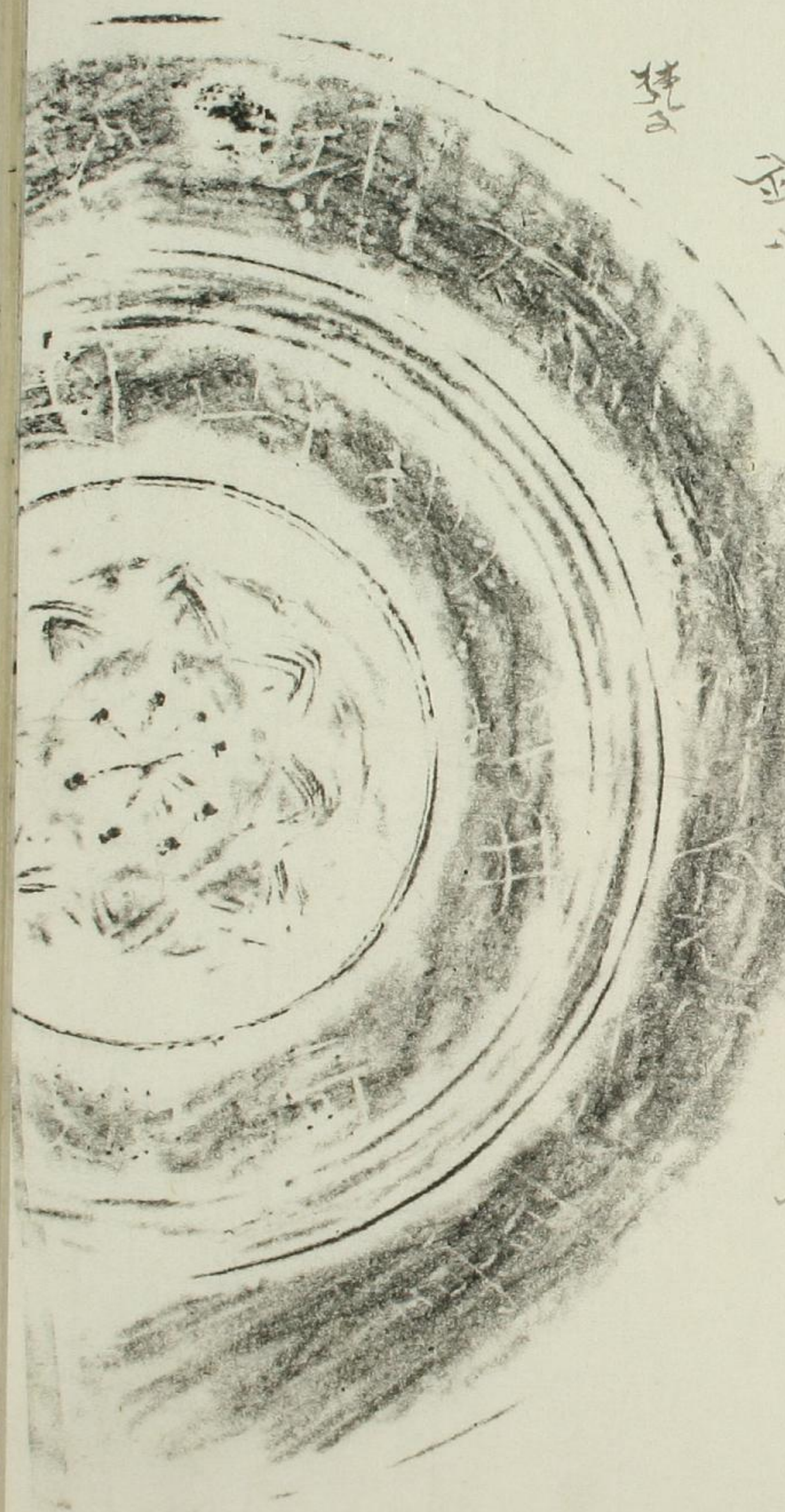
西の巻 狩境
木 既美の板

此の巻の
西の巻の
木 既美の板



本多氏
西の巻
木 既美の板

此の巻の
西の巻の
木 既美の板



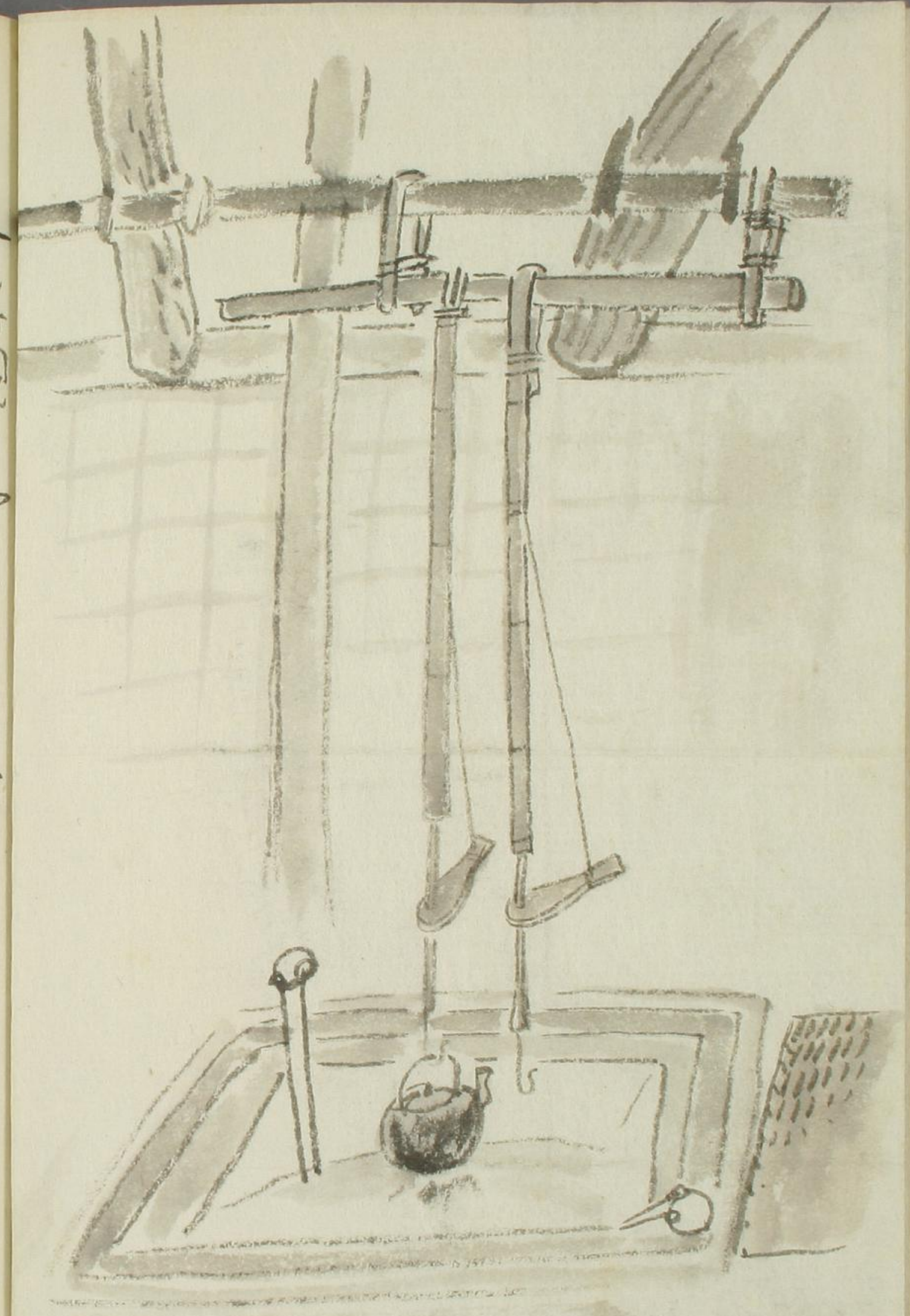
燒云

金川 所製 即 所 仲 以 見 鄉

人見村親善堂正八身金口鋸

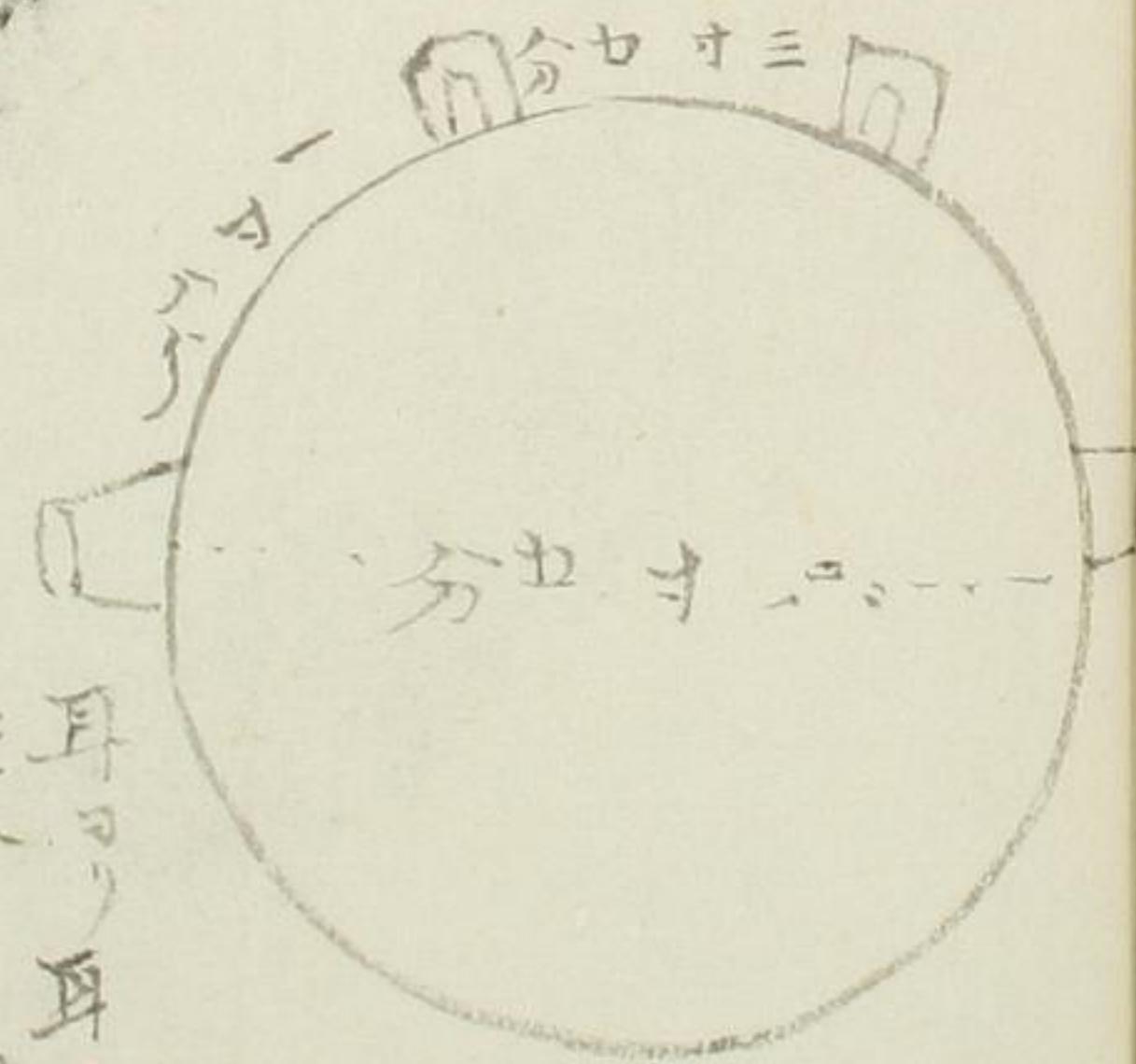
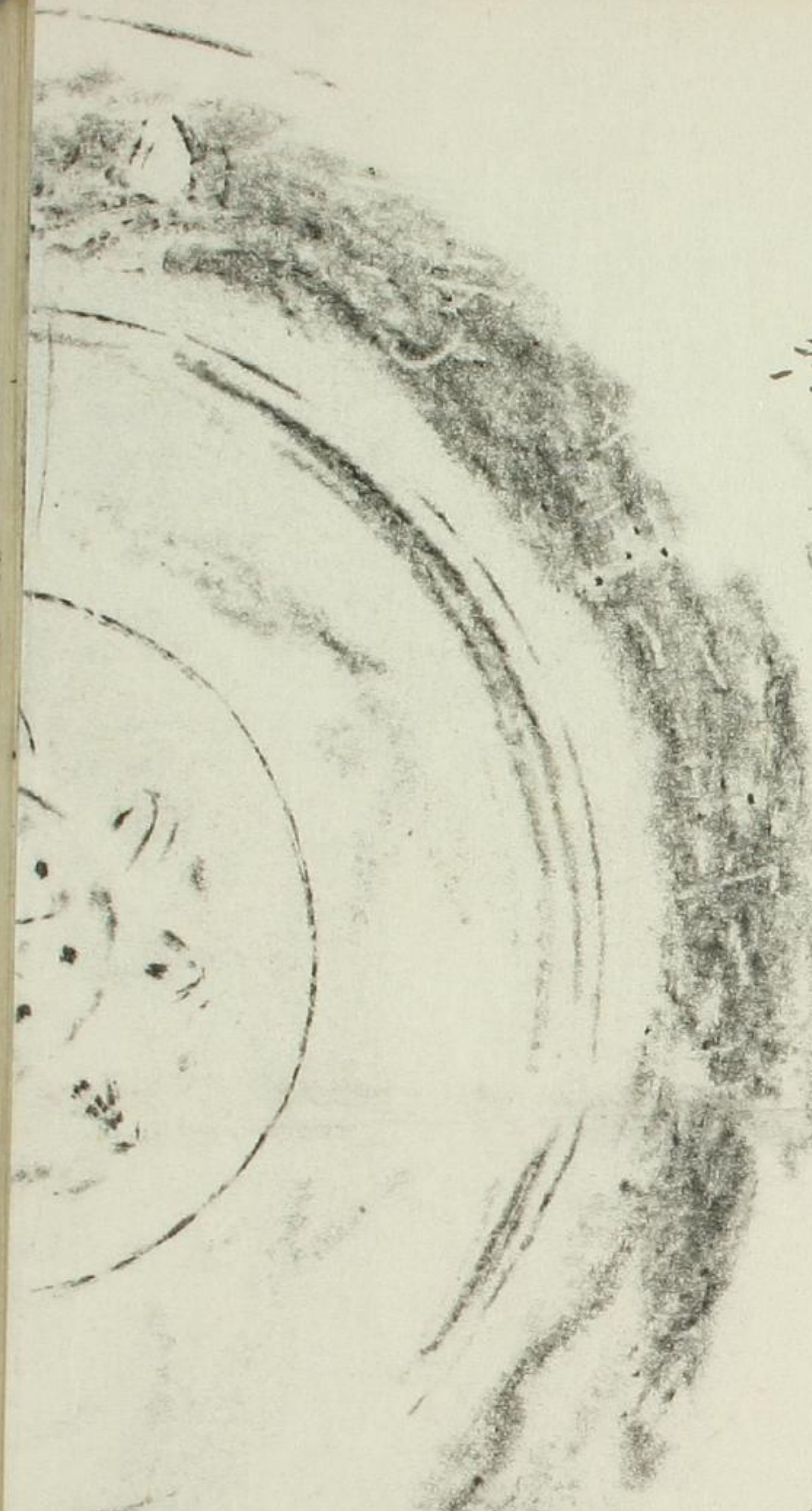
三喜堂

河内氏在室海峽



同裏

嵩山聖堂古雪房



耳ヨリ耳ヲ
經ハ寸五分
耳ノ巾九分
各サ三寸分

山城園

久勝

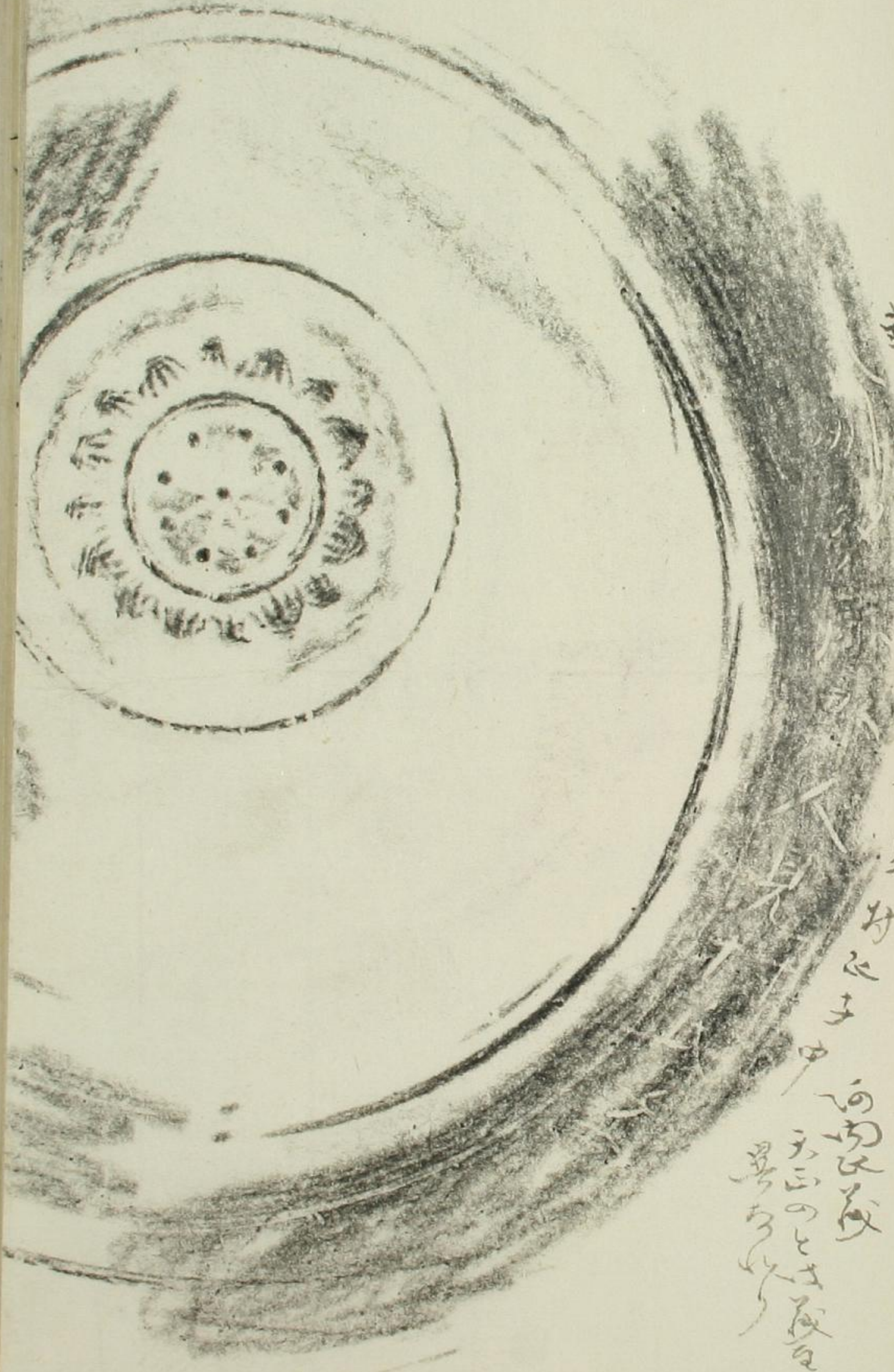
進

坪井

高

敬白
新奉也

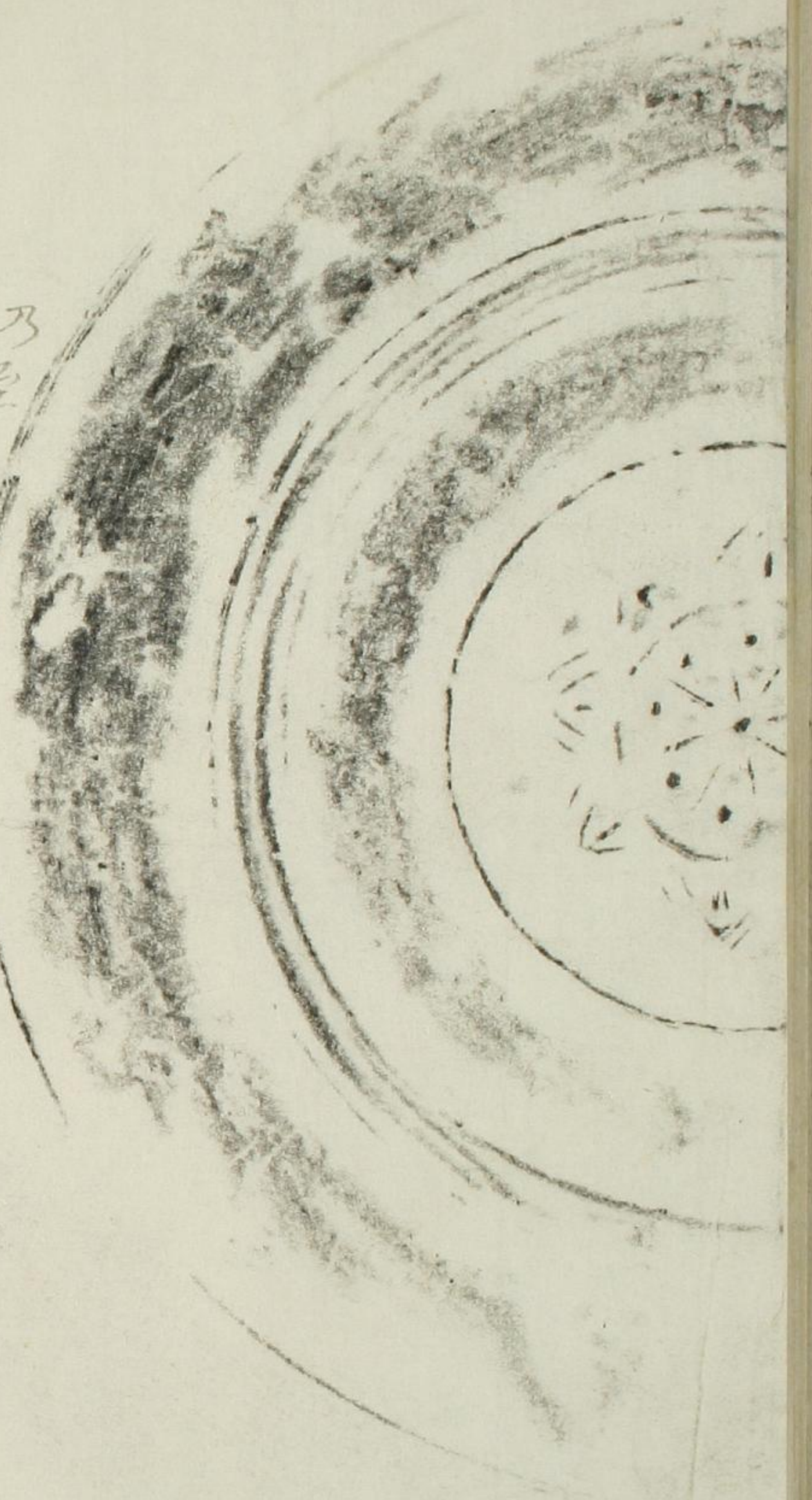




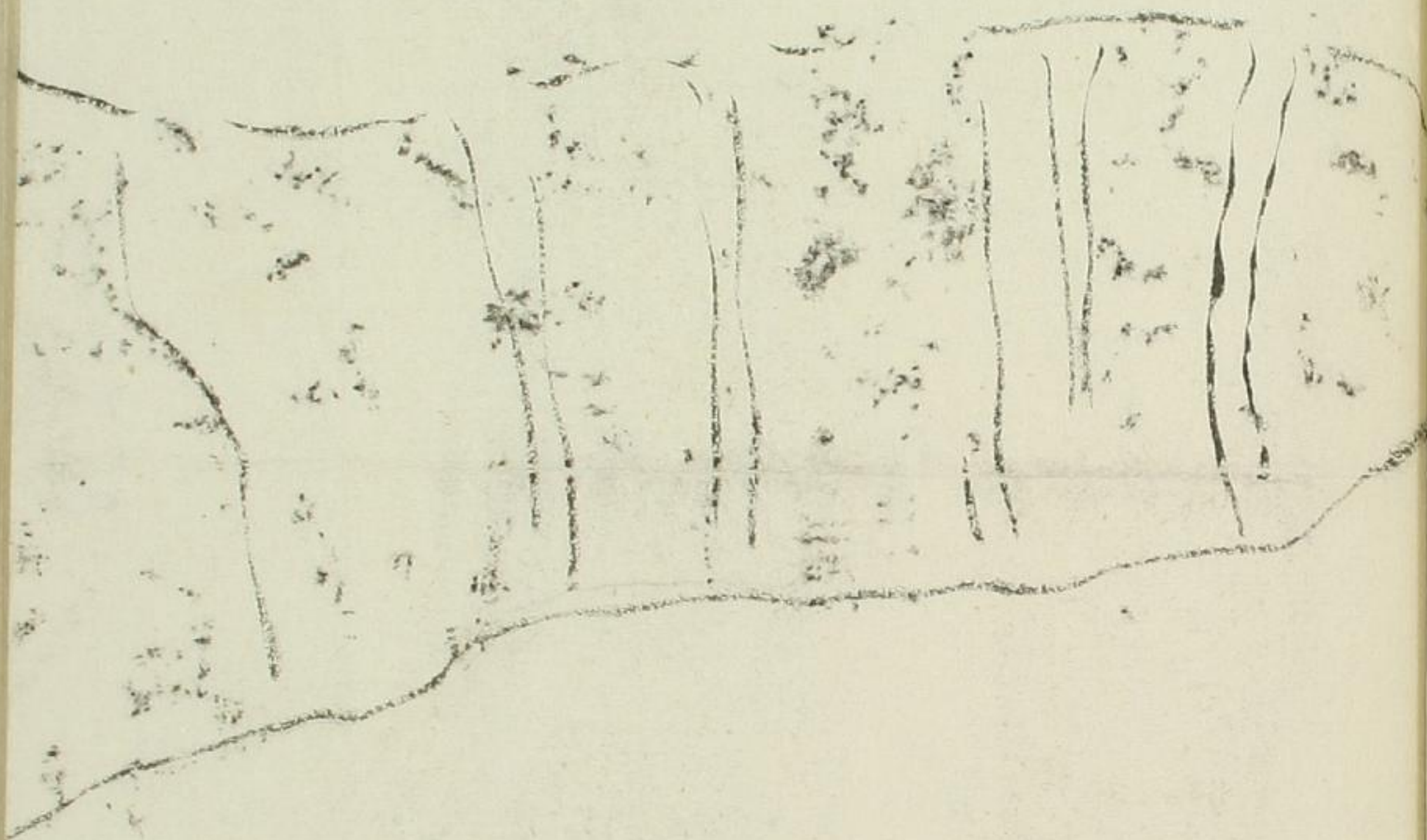
全川 多麻郎

人見村に
中
河
天正の
異

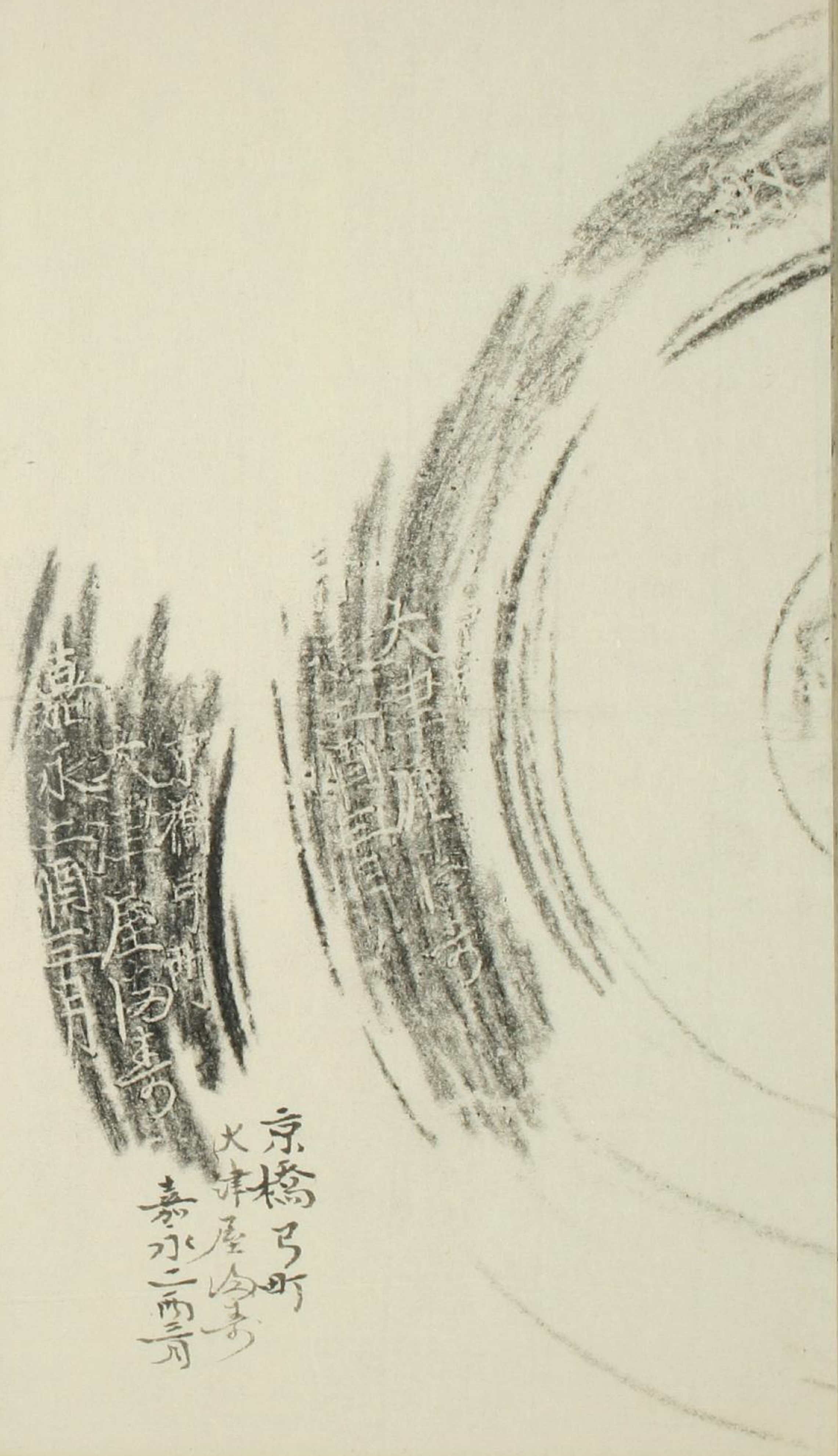
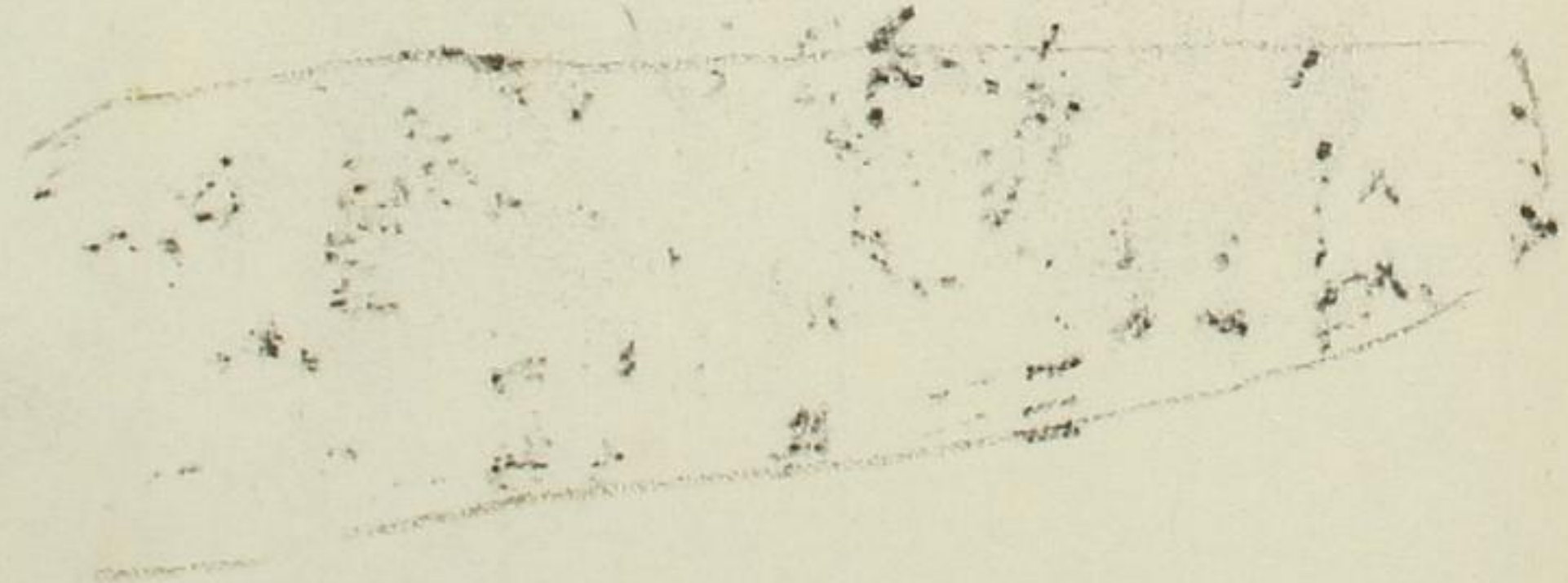
乃至
法
平
等
而
已



河原
 人
 雷
 多
 多



西側



嘉永二年正月
 大津屋
 嘉永二年正月

京橋弓町
 大津屋
 嘉永二年正月

人見村觀音堂也出土板碑破片



康曆二十

外二室以匠石塔の孔
右板碑破片あると
文云
以二七ノ人
京王
電平
多
多
到
内
在
多
道
農
家
墓

おかし
野中
...

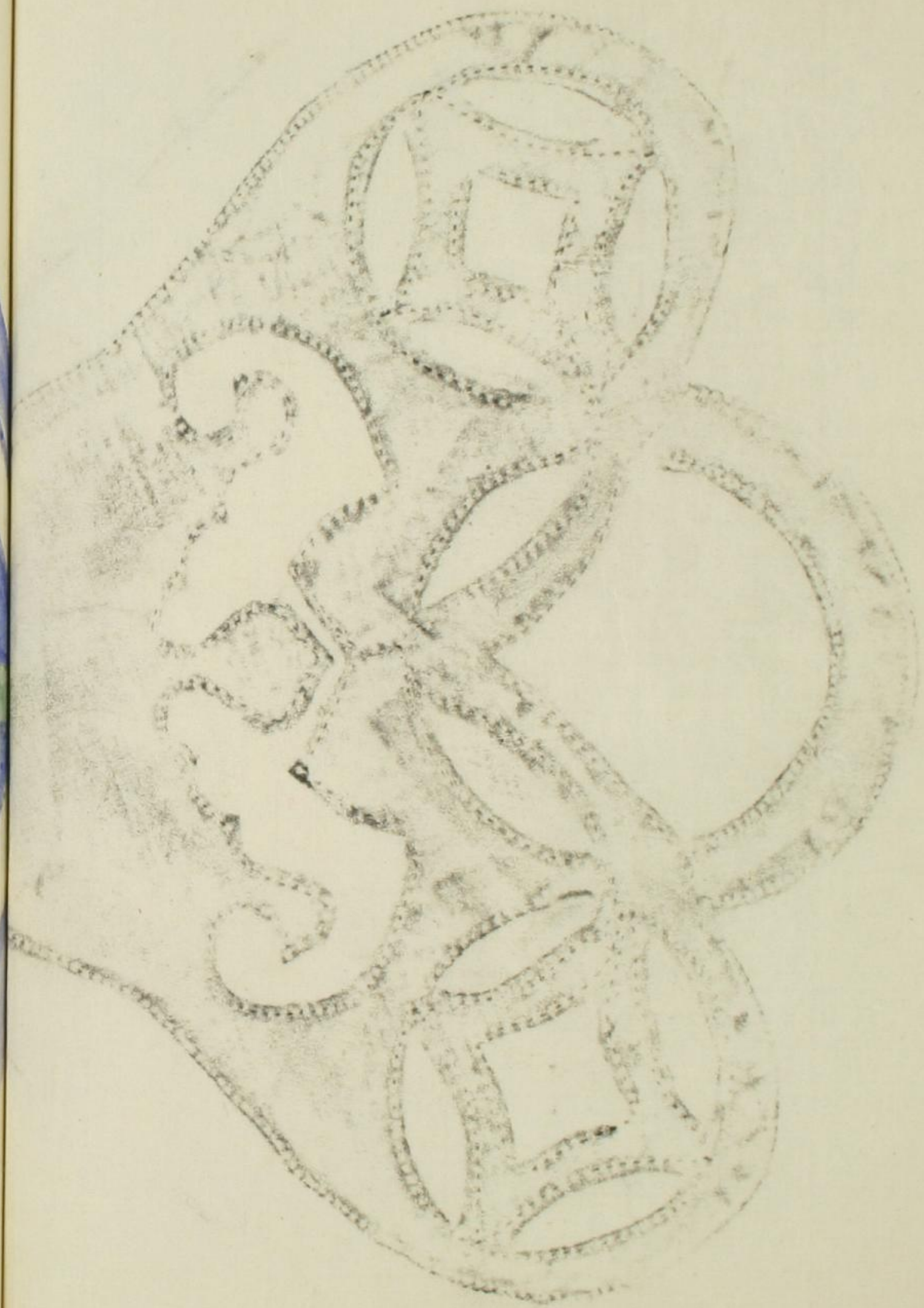
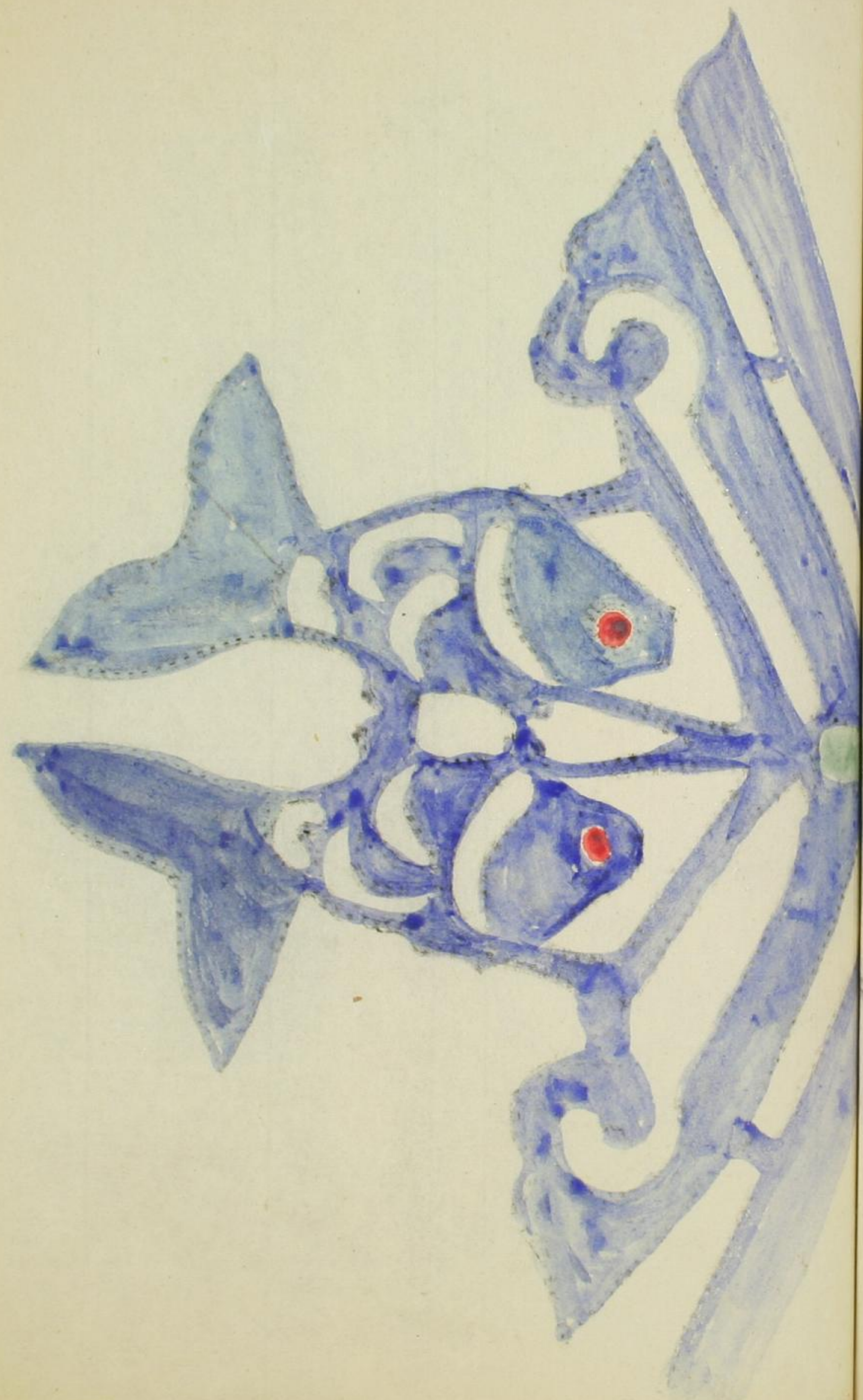
慈勝堂
...

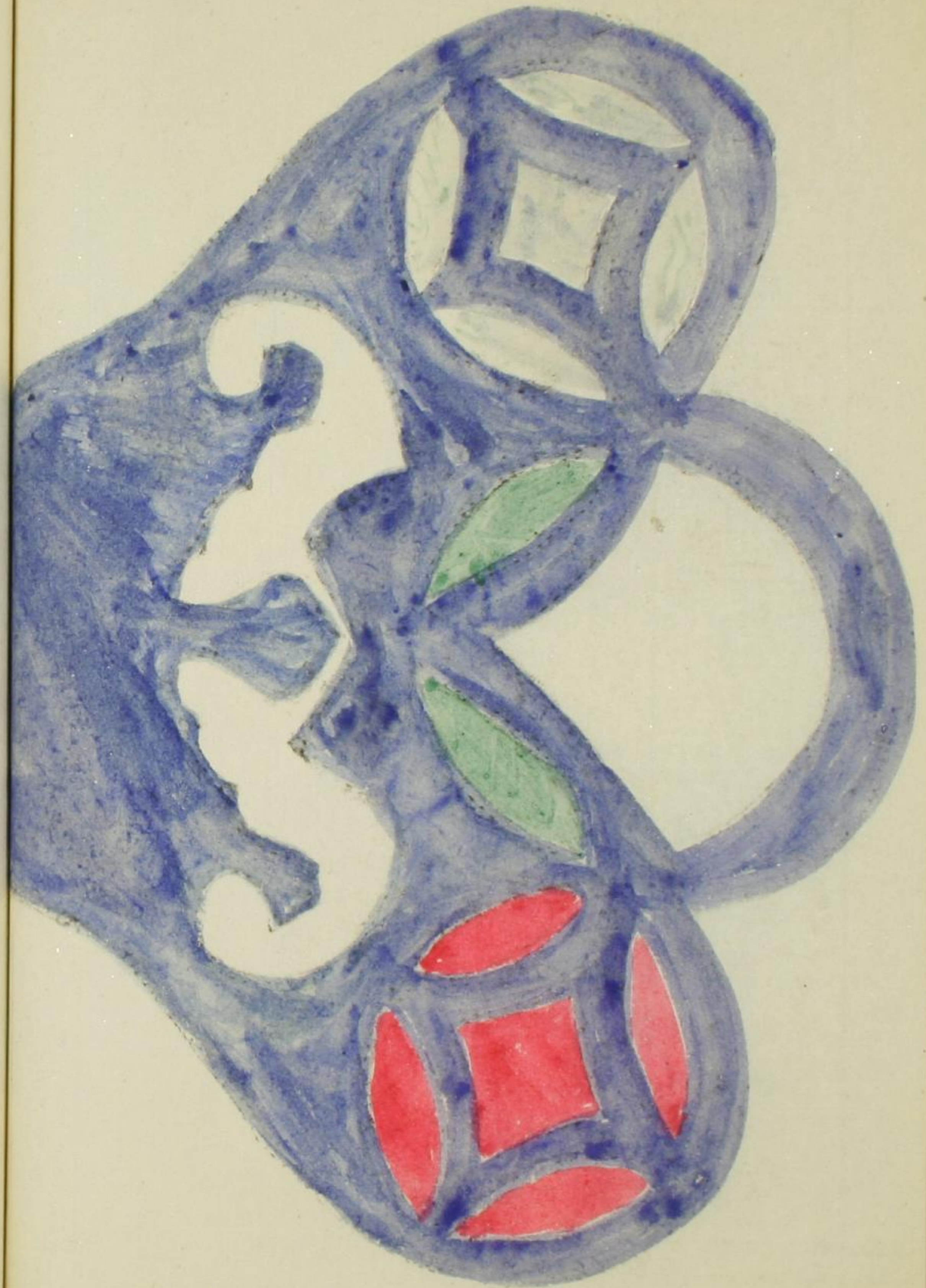
慈勝堂
...

...

...

...





海州三層

海州三層悦子

木丸を
三層の悦子



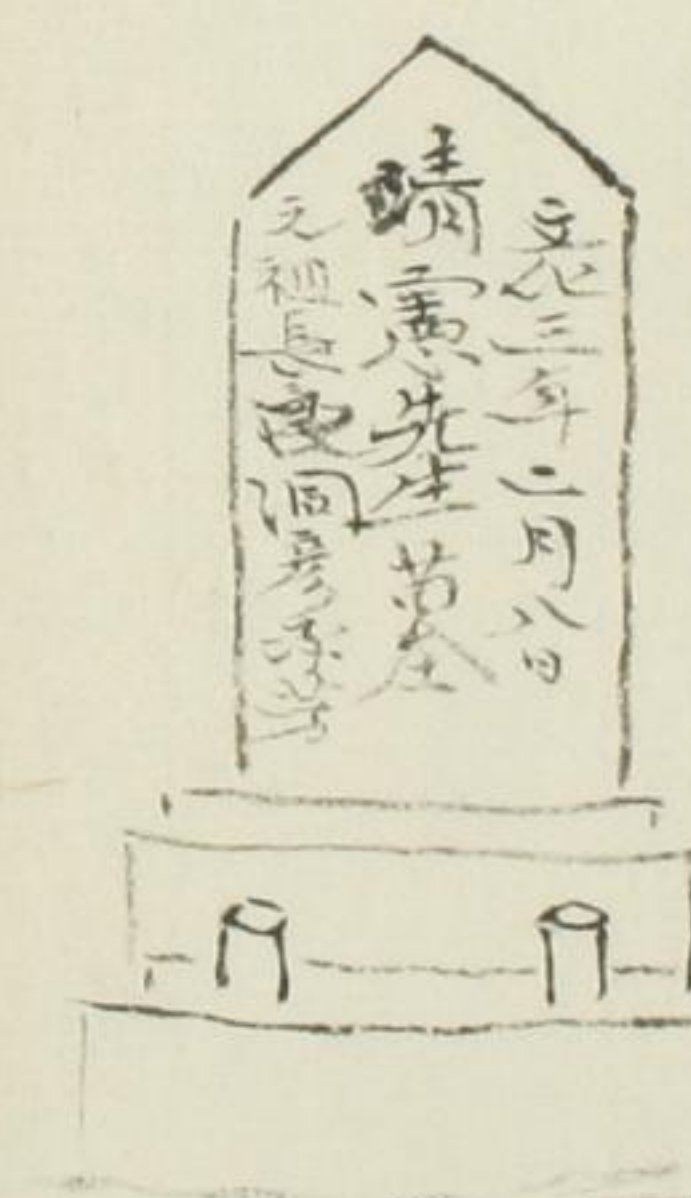
銀錢

大正六年四月廿三日
 海州三層悦子の
 形を
 下に
 二枚
 並べて
 示す
 此の
 形は
 大正
 六年
 四月
 廿三
 日
 海州
 三層
 悦子
 の
 形
 を
 示
 す
 此
 の
 形
 は
 大
 正
 六
 年
 四
 月
 廿
 三
 日
 海
 州
 三
 層
 悦
 子
 の
 形
 を
 示
 す



古成宗十金堂
と有雀堂の
墓

大内公は六十六年七十二歳に在りて
伊勢より十金堂と稱せし一有又なる古成宗を祀りて
堂號せし金と稱せし古成宗の二子を半可と稱して
十金と稱せし一當の古成宗の本名とて
然るに十金と出せしが古成宗の
の流せしは越後守の流せしは
長安の流せしは一津市萬の流せしは馬場真宗教恩
寺の墓あり



伊勢の有雀堂に十金堂と稱せし古成宗を祀りて
永田と稱し
伊勢守の墓あり
永田と稱し
伊勢守の墓あり

永田と稱し
伊勢守の墓あり

永田と稱し
伊勢守の墓あり

伊勢守の墓あり
永田と稱し
伊勢守の墓あり

伊勢守の墓あり
永田と稱し
伊勢守の墓あり
永田と稱し
伊勢守の墓あり

枚研を考見せり枚研建立する當の何と云はれ
 かは疑向有りしがこれより塔婆と云ふ
 又見れば石塔露形あり古の刻あり
 年号ありあり塔の床下の露形あり
 しひひと云ふは此の款福寺なり
 中々枚研の破片と云ふは總て此の枚研に
 當りてありと云ふは此の款福寺なり
 鐘文に工部と云ふは此の款福寺なり
 寛永九年の建立と云ふは此の款福寺なり
 此のくは此の年号下部の刻あり
 の枚研二三枚あり又田能家の如きの
 研枚研と云ふは天正九

年ありとのあり
 所定の枚研のありあり



観福寺の重石の刻あり
 此の款福寺のありあり

卷之五

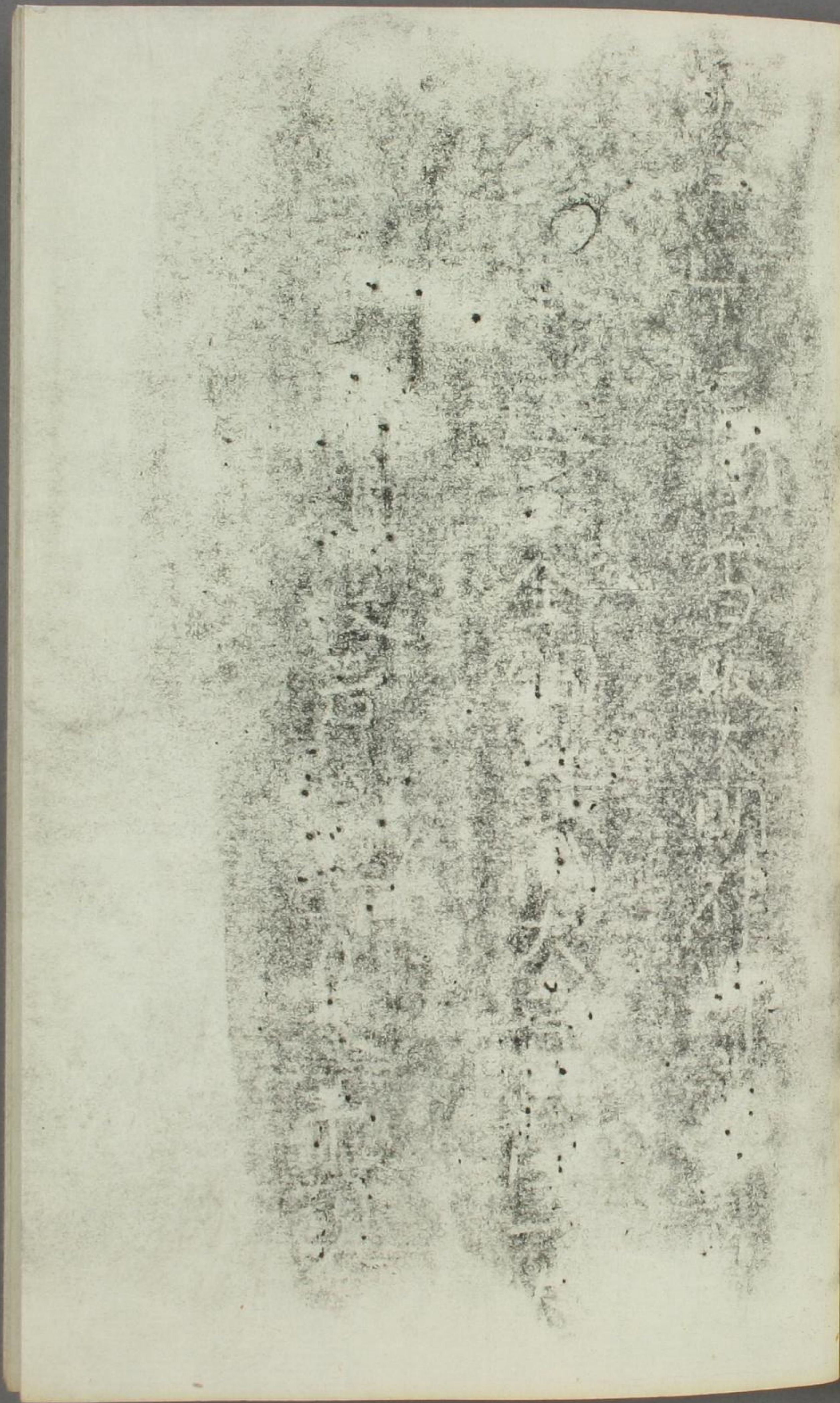
卷之五

卷之五

卷之五

卷之五

卷之五



九家大書卷之三十一

史記卷之三十一

九家大書卷之三十一
史記卷之三十一

史記卷之三十一

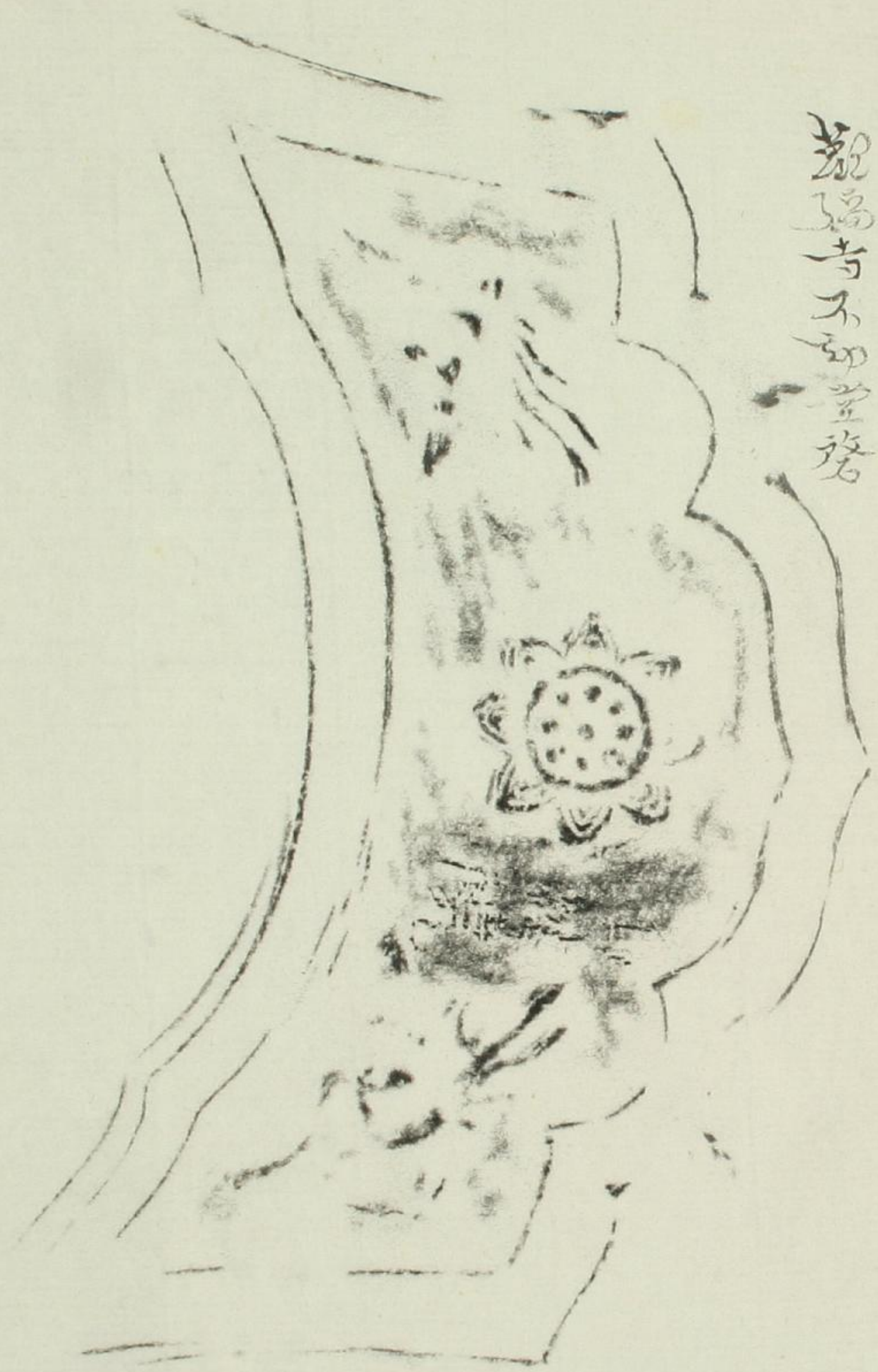
史記卷之三十一

。其世者。有。天。地。人。三。才。也。

天。地。人。三。才。也。

。其。世。者。有。天。地。人。三。才。也。

。其。世。者。有。天。地。人。三。才。也。



親臨寺不詳堂塔

同寺に轉したるもの今三件、先折込の羽根つゝ物を
 一件、蓋し十二面鏡と稱せしものと必成るを葉の
 件とせしり、揃り午前の如きものなり
 弘安五年八月下

左

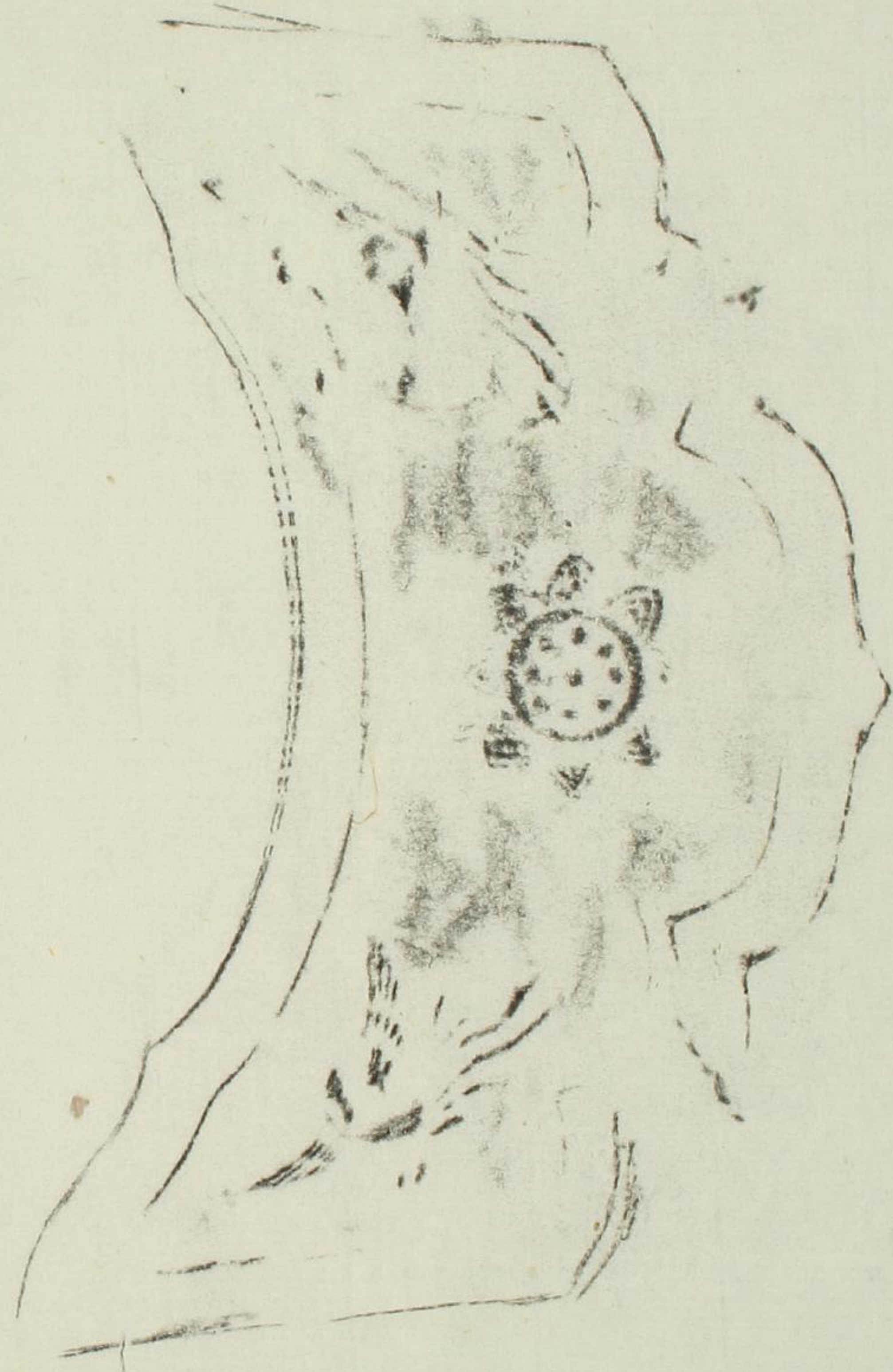
延慶二年大藏三月下

何れに蓋せし蓋を蓋折込の爲に納めしものなり
 三件、折込の蓋を一件の如きものなり
 三件、折込の蓋を一件の如きものなり



觀福寺本堂元和の草邊

元和八年





昔の事を知る所の御座る先生は遠くともある
不世の好子孫の御座る如く氣身はくわたり
おゆすゝとてこゝろをわたりし
先古の事を知る所の御座る先生は遠くともある
世に出来し目くわたりし
端々入致し所方かたの御座る如く
為の二種ありて馬一匹ありて
この世にす

昔古の記録

目六十五



九月廿九日



上海
電話
同



上海自來水公司
上海自來水公司
上海自來水公司



Handwritten signature or name in cursive script.

Handwritten text in cursive script, possibly a date or address.